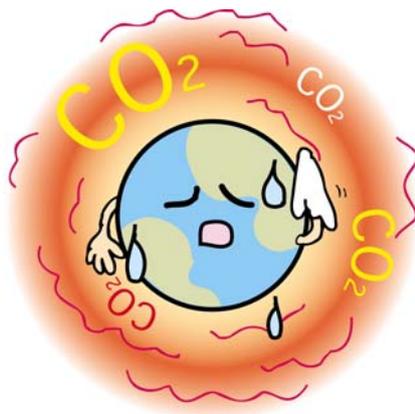


私たちの温暖化防止ルールを考えよう！

～検討委員会の議論にご意見を～

- 気温や海面水位の上昇、猛暑や大洪水といった異常気象など、地球温暖化による気候の変動は、私たちの暮らしだけでなく、地球上の全ての生き物に深刻な影響をおよぼします。
しかも、温暖化は、私たち人間が便利で快適な生活を求め、石油や石炭などを大量に消費し、二酸化炭素などの温室効果ガスを大気中に大量に排出したことによってもたらされています。温暖化問題と取組むには、皆さん一人ひとりがこの事実を知り、職場で、家庭で、あるいは学校で、自分たちのビジネススタイルや生活スタイルを変えていく必要があります。
- 「神奈川県地球温暖化対策推進方策検討委員会」では、神奈川県の依頼を受けて、「脱温暖化社会」を実現するためのルールなどを盛り込んだ条例について検討しています。この冊子は、検討委員会で検討してきた内容を中間的にまとめ、お知らせするものです。
- 神奈川県で暮らし、働き、あるいは学んでいる皆さん、この冊子を素材として、ぜひ一度、温暖化防止のためにはどんなルールがこの地域に必要なのか、考えてみてください。そしてぜひ、内容についてのご意見をお寄せください。
住み良く美しい環境を、私たちの次の世代に引き継ぐため、全員の手で温暖化対策に取り組み、「脱温暖化社会かながわ」を築いていきましょう。



平成 20 年 1 月

神奈川県地球温暖化対策推進方策検討委員会

目 次

1	目的	1
2	地球温暖化対策の基本的施策・県の率先実行の取組	1
3	事業活動に関する温暖化対策	2
4	建築物及び都市づくりに関する温暖化対策	2
5	新エネルギーの活用	3
6	森林の整備と保全	4
7	交通・自動車に関する温暖化対策	4
8	消費行動に関する温暖化対策	5
9	環境配慮技術の研究開発や環境配慮活動への支援	6
10	温暖化に関する普及啓発と環境教育	7
11	推進体制・広域連携・その他	7
	神奈川県地球温暖化対策推進条例（仮称）検討のこれまでの経緯	8
	参考資料	9

□主な用語解説□

地球温暖化：産業革命以降、人間が化石燃料を大量に消費し、二酸化炭素などの温室効果ガスを増加させたことで、大気の温室効果が強まり、地球の平均気温が上がってきている現象。

化石燃料：石油・石炭・天然ガスなどのエネルギー源。

温室効果ガス：温室のように地球を保温する働きを持つ、二酸化炭素などの気体。

二酸化炭素：京都議定書で削減対象となっている 6 種類の温室効果ガスのうち大部分を占め、地球温暖化に最も影響を与えている気体。

省エネルギー：事業活動や日常生活で使う電気、ガス、石油などのエネルギー消費を減らし、同じ活動でもより少ないエネルギーで行うように努める取組。

新エネルギー：太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーや、バイオマス等のリサイクルエネルギーなどの新たな（または見直された）エネルギー資源。

環境への負荷：人の活動などによって環境に与えるマイナスの影響。例えば温室効果ガスの増加が地球の気候に与える影響のようなこと。